

予 算 要 求 資 料

令和 8 年度当初予算

支出科目 款：教育費 項：大学費 目：情報科学芸術大学院大学費

事業名 学生海外派遣事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 情報科学芸術大学院大学 電話番号：0584-75-6600

E-mail：c21905@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 234 千円 (前年度予算額： 234 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	234	0	0	0	0	0	0	0	234
要求額	234	0	0	0	0	0	0	0	234
決定額	234	0	0	0	0	0	0	0	234

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

大学間交流事業として、レベルの高い海外の大学へ学生を短期間派遣することにより、メディア表現における海外の先端事情と技術を学び、国際的な感覚を持って活躍する高度な表現者を育成する一助とする。また、学生の研究活動におけるリーダー的存在として、派遣で得た先端事情や技術などを学内に還元することで、研究活動の活性化を図る。

現在、オーストリアの大学と学生相互派遣の協定を令和 5 年 3 月更新

大学名：リンツ美術工芸大学 (Linz University of Art and Industrial Design)

(2) 事業内容

学生相互派遣協定を締結しているリンツ美術工芸大学へ、本学の学生を派遣する。派遣人数は、平成27年度から各学年 1 人とし、派遣期間は、2 年生は 4 月から 7 月、1 年生は 9 月から 1 2 月のうちから 3 か月以内とする。

派遣学生は、希望者の中から教務委員会で審議を行い、その推薦を基に学長が決定する。

なお、リンツ美術工芸大学からも、本学へ例年 1 ～ 3 人の学生が派遣される。

<協定の内容>

- ・派遣費用(旅費、滞在費)は、派遣元負担
- ・授業料、住居確保、教材費等は、派遣先負担
- ・その他の経費(生活雑費等)は、学生負担

この協定に基づき、学生の派遣費用(旅費、滞在費)を本事業費で負担する。

なお、リンツ美術工芸大学からの派遣学生の住居は、本学学生寮を活用し、教材費等は、学生実習費等で対応する。

(3) 県負担・補助率の考え方

(4) 類似事業の有無
無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	234	学生への補助金（117千円/人(旅費90千円、滞在費27千円)）2人
合計	234	

決定額の考え方

4 参 考 事 項

(1) 後年度の財政負担

後年度においても同程度の予算計上を予定。

県単独補助金事業評価調書

☐ 新規要求事業

☒ 継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	学生海外派遣事業
補助事業者（団体）	情報科学芸術大学院大学の学生 （理由） 海外派遣することで先端事情と技術を学び、国際感覚を持つ表現者育成が期待できるから。
補助事業の概要	（目的） レベルの高い海外の大学へ学生を短期間派遣することで、メディア表現における海外の先端事情と技術を学び、国際的な感覚を持って活躍する高度な表現者を育成する一助とする。更に、学生の研究活動におけるリーダーとして、派遣で得た先端事情や技術などを学内に還元することで、学生の研究活動の活性化を図る。 （内容） 学生相互派遣の協定を締結しているオーストリアのリンツ美術工芸大学へ派遣する学生への経費補助
補助率・補助単価等	定額・定率・その他（例：人件費相当額） （内容） 募集人数2名、1名当たり117千円 （理由） 必要経費を予算の経費内で補助している。
補助効果	メディア表現における海外の先端事情と技術を学び、国際的な感覚を持った高度な表現者の育成の一助となることが期待できる。また、学生の研究活動のリーダーとして、派遣で得た先端事情や技術などを学内に還元することで、学生の研究活動の活性化が期待できる。
終期の設定	終期 令和10年度 （理由） リンツ美術工芸大学との協定期間を3年（以降1年毎の更新）としているため。

(事業目標)

・終期までに何をどのような状態にしたいのか
(1) メディア表現における国際的な感覚を持った高度な表現者の育成。
(2) 学生の研究活動のリーダーとして、派遣で得た先端事情や技術などを学内に還元することで、学生の研究活動の活性化を図る。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (H22)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標	達成率
①海外派遣後の 学年末での成績 評価係数	2.47	2.9	2.7	2.7	2.7	—
②						

補助金交付実績 (単位：千円)	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	234	0	117	234	234

(これまでの取組内容と成果)

令和4年度	・取組内容と成果を記載してください。 新型コロナウイルスの影響で第1回目のリンツ美術工芸大学への派遣を中止とし、第2回より実施した。海外派遣した学生が先端事情と技術を学び、国際感覚を持つ表現者を育成することができた。また、派遣学生が他の学生の研究活動のリーダーとして、派遣で得た先端事情や技術などを学内に還元することで、学生の研究活動の活性化を図ることができた。
	指標① 目標：2.7 実績：2.7 達成率：100 %
令和5年度	海外派遣した学生が先端事情と技術を学び、国際感覚を持つ表現者を育成することができた。また、派遣学生が他の学生の研究活動のリーダーとして、派遣で得た先端事情や技術などを学内に還元することで、学生の研究活動の活性化を図ることができた。
	指標① 目標：2.7 実績：2.9 達成率：107 %
令和6年度	海外派遣した学生が先端事情と技術を学び、国際感覚を持つ表現者を育成することができた。また、派遣学生が他の学生の研究活動のリーダーとして、派遣で得た先端事情や技術などを学内に還元することで、学生の研究活動の活性化を図ることができた。
	指標① 目標：2.7 実績：2.9 達成率：107 %

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 2	大学におけるグローバル化は、すでに当然のことであり、海外の大学との連携を通じた取り組みは教育と、研究活動の両面で必要不可欠である。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50～100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)	
(評価) 2	派遣を経験した学生の知識や意欲の向上が図られ、帰国後は、研究活動でのリーダー的存在として活動している。また、派遣報告会などを通して学んできたことを学内に還元し共有することで、他の学生の知識や意欲が向上、研究活動の活性化につながっている。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 1	留学する上で、必要最小限の補助金での派遣としている。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 今後も国際的な感覚を持って活躍する高度な表現者を育成するための国際連携に基づく取り組みの推進。

(次年度の方針)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 派遣を経験した学生の知識や意欲の向上が図られ、帰国後は、研究活動でのリーダー的存在として活動している。また、派遣報告会等で学んできたことを学内に還元し共有することで、他の学生の知識や意欲の向上において非常に有効であり、派遣されてきた学生との交流により、良い刺激を受けている。このことから、令和5年度3月にリンツ美術工芸大学との協定を更新し継続する。
